

災害時における自衛隊の役割はとても重要です。市民が自衛隊の活動を間近に見ることは、防災意識の高揚を生み、連携を一層深めることにもつながります。こうしたことを踏まえ、本市の今後の防災訓練における自衛隊との連携について質問いたしました。

自衛隊災害派遣等の実績：規模

阪神淡路大震災	延べ約 225万人
東日本大震災	延べ約1,058万人
平成28年熊本地震	延べ約 81万人

本市と自衛隊の関係

千葉県においては、需品学校、高射学校、第一空挺団が、県を3分割して各地域の防衛・警備・災害派遣を担当し、本市の災害派遣等は松戸市や浦安市などとともに需品学校が担任しています。この需品学校は松戸市にあるのですが、保有する装備

の中でも災害時に威力を発揮するのが高性能浄水器です。この浄水器の浄化能力は海水であれば30,000L/日、淡水であれば70,000L/日以上を飲料水に変えることができます。

また平成24年度の9都県市共同防災訓練の際に千葉県の主催会場として、江戸川に応急的な橋を架け、江戸川区及び葛飾区から救援物資の輸送車両を通行させる訓練やヘリコプターによる茨城県の災害派遣医療チームの輸送、小学校での避難所宿泊訓練における仮設入浴場の開設、海上自衛隊による他県からの救援物資の輸送等しっかりと連携を組んでおります。今後はそれに加え、緊急患者輸送も訓練の対象にしておく必要があるかもしれません。

ほそだ伸一の「ここに注目」

～ 道徳教育 ～

道徳教育について

「特別の教科 道徳」が、小学校では2018（平成30）年度から、中学校では2019（平成31）年度から、それぞれ完全実施されます。国語、算数、理科、社会、英語といった従来の学校教育の「評価対象科目」に、新たに「道徳」が加わるわけです。

「道徳教育」の目標は、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことです。精神的にも身体的にも発達途上の青少年にとって、極めて重要な科目と言えます。



第二次世界大戦前のわが国では、そも道徳教育に相当する「修身」が小学校の筆頭教科に位置付けられていました。しかし1945（昭和20）年の終戦に伴い、GHQは国史などと共に「軍国主義教育」とみなしこれを授業から排除。「道徳」「道徳の時間」などと名をかえて復活したのは、1958（昭和33）年のことです。

さて、今回の「特別の教科 道徳」の教科化には、社会問題ともなっている「いじめ」問題が重要な背景としてあります。いじめにより、心身の発達に重大な支障が生じたり、尊い命が絶たれるといった痛ましい事案が発生しています。子供たちを、いじめの加害者にも、被害者にも、傍観者にもしないために、「いじめは許されない」ということを道徳教育の中でしっかり学べるようにする必要があります。

私は、此度の「道徳」の教科化には大いに賛成です。しかしながら、数字で表すことが困難な人間の内面を、別の人間が評価し採点することには本質的な難しさがあります。たとえば、道徳の評価が必ずしもその生徒本人の道徳性を表すものではない場合もできます。評価者の恣意的な評価もあってはなりません。つまり、「教科」と「採点」の整合性が今後の課題です。我々は知恵を結集してその問題を解決していかねばなりません。

【市川市におけるいじめの認知件数】

市内39の小学校	679件
市内16の中学校	140件

【平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査】より。

ほそだ伸一 事務所

〒272-0031 市川市平田 2-19-8-101

【TEL】047-371-3257 【携帯】090-7227-2107

【e-mail】hosodashinichi0316@gmail.com

HP <http://www.ほそだ伸一.com>

FB <https://www.facebook.com/shinichi.hosoda.16>



ほそだ伸一へ
メールする